



2012年4月より歯科の健康保険に周術期口腔機能管理が新設されました。周術期とは、入院、麻酔、手術（その他の治療）、回復といった一連の期間を指します。周術期口腔機能管理は、主としてがん患者さんが全身麻酔手術や抗がん剤治療、



徳島大学歯学部口腔内科学分野
青田 桂子助教

放射線治療を行う前後に、歯科医師や歯科衛生士が口腔内の感染源を除去し、口腔衛生状態をよくすることで、誤嚥性肺炎や口内炎などの合併症を予防し、がんなどの治療をサポートする目的のためにつくられました。

近年、歯周病菌などの口腔内細菌が誤嚥性肺炎や糖尿病などの全身疾患を悪化させる重大なリスクになることが明らかとなりました。口腔内細菌は、歯周炎や口内炎があれば容易に血管中に侵入し、また気道や消化管に流れ込んでいます。健康な時は症状がでない場合でも、全身

麻酔手術や抗がん剤治療、放射線治療などにより免疫力が低下した場合に、口腔内細菌が全身性の重篤な感染症を引き起こすことがあります。

徳島大学病院は、四国で唯一、医科診療部門と歯科診療部門を併せもっている。その特性を活かし、周術期の口腔ケアは歯科診療部門の「口腔管理センター」が窓口となり、

合併症防止へ専門チームが診療

「が窓口となり、歯科医師11人、歯科衛生士6人がチームとして診療にあたっています。また、徳島県歯科医師会と連携し、遠方で、入院までの大学病院通院が困難な患者さんに対しては、近くの歯科医院を紹介しています。担当医師から依頼のあった患者さんに対し、入院前に口腔内診査を行い、治療が必要な歯は専門の歯科医師が治療し、歯科衛生士により口腔清掃を行います。術後、ベット上安静で自分で口腔ケアができない場合は、専門チームが病棟まで出向いて口腔ケアを実施します。

全身麻酔手術や抗がん剤治療、放射線治療は患者さんやご家族の不安も大きいと思います。入院中、患者さんの口腔ケアを専門チームが行うことにより、合併症を防ぎ、一日でも早い退院の手助けになると確信しています。